

基本政策 1 安心して円滑に移動ができる

【基本政策の方向性】

地域公共交通網の充実や近隣自治体との広域的な連携強化を図るなど、市民の移動利便性の向上に努め、安心して円滑に移動できる交通体系が確立された“まち”を目指します。

5年後の目指す姿

「移動利便性の向上」

高齢化の進展など社会情勢の変化や、環境問題などの視点も組み入れ、新たな公共交通システムの活用により地域公共交通網を充実させるなど、移動利便性の向上を目指します。

【数値目標】	現状値	目標値
移動に不便を感じている人の割合（市民意識調査）	—	⇒ 25%以下（R7）

基本施策

1－1 地域公共交通網の充実

市内循環バス及びデマンドタクシーの利用状況などを踏まえ、新たな公共交通を研究し、利便性の高い地域公共交通網の形成と充実を目指します。

【KPI】	現状値	目標値
市内循環バスの利用者数	183,079 人（R2）	⇒ 185,000 人（R7）

【主な取組】 市内公共交通の充実

市内循環バス及びデマンドタクシーの利用状況を検証し、移動に関しての地域性や年代別の特性などを把握することで、新たな市内公共交通の充実の基礎資料とし、移動に不便を感じている人への交通支援策などを検討します。

【KSF】	現状値	目標値
市内循環バス及びデマンドタクシーを含めた市内交通の検証	—	⇒ 実施（R7）

1-2 鉄道駅周辺の安全性の向上

放置自転車・違法駐車対策として、駐輪、駐車施設を運営するとともに、駅近隣の店舗や鉄道事業者と協力し、鉄道駅周辺の美観の向上と歩行者などの安全性の向上を目指します。

【KPI】	現状値		目標値
放置自転車・違法駐車対策の推進の満足度 (市民意識調査)	59.5% (R2)	⇒	65.0% (R7)

【主な取組】 放置自転車の抑制

駅周辺における“まち”の美観と歩行者などの安全性を確保するため、放置自転車の撤去や、路上に自転車等を放置しないよう、指導や整理などの対策を図り、放置自転車の抑制に取り組みます。

【KSF】	現状値		目標値
放置自転車の台数	33,700 台/年 (R2)	⇒	32,000 台/年 (R7)

関連する SDGs ゴール



公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、安全かつ容易に利用できる、持続可能な輸送システムを提供していきます。 関連ターゲット (11-2)



官民の連携を強化し、地域公共交通の充実や駅周辺の安全確保に向けた取組を進めます。 関連ターゲット (17-17)

関連計画等

都市計画マスタープラン (令和 3 年度～令和 22 年度)

関連部署

健康福祉部 障がい福祉課、高齢者福祉課

建設部 交通・管理課